第１６回兵庫県子ども・子育て会議　議事概要

日時：平成２９年１１月２８日　午後２時00分～午後４時00分

場所：兵庫県不動産会館　研修ホール

○委員
　やはり、少子化克服には、父親の育児参加が非常に有効で、施策としても実施しやすい。国でも目標を定めているが、例えば、父親が配偶者の出産直後に休暇を３日取得するよう促進すれば、子どもを産もうという母親が増えるし、父親も３日間子どもを看れば、いろんな意味で前向きの効果が出る。兵庫県で施策として思い切ってやってみてはどうか。

○委員
　シニア世代から子育て世代への支援については、シニア世代が地域活動にもっと関わることが必要。子どもの目線に立って取り組める者は多いが、自ら先頭に立って旗を振れる人材が育っていない。現在の施策に加え、それらの人材を活用し、様々な形で地域との関わりや繋がりを作っていける施策を展開することが重要。

○委員
　小中学校へのソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの配置を引き続き推進して欲しい。
　病児・病後児保育事業は非常に使いにくい仕組みとなっているので、使い勝手のいいものとなるよう改善を検討して欲しい。
　シニア世代から子育て世代への支援については、現在、元気なシニア世代がたくさん参加してくれている。引き続き当該事業を頑張って欲しい。

○委員
　病児・病後児保育を実施拡大に向けて、引き続き、行政と地域・医師会等がタイアップして事業を推進して欲しい。

○委員
　病児・病後児保育については、経費や人材の確保という点からなかなか進んでいない地域がある。

○委員
　保育士の処遇は着実に改善されている。しかし、今年度の処遇改善は、キャリアアップ研修の受講という要件があり、現場の保育士にとって年間研修６０時間は非常に長く、時間の確保が非常に難しい。計画的に受講できる制度として欲しい。

○委員
　放課後児童支援員は研修を受け資格を取得した者だが、低賃金で、子どもの安全を守るほか、保護者からの膨大な要求に対応するなど非常に大変な現場で働いている。にもかかわらず、保育士のようにその活動や役割が十分世間に認知されていないのが現状。
　また、放課後児童クラブの開所を19時以降にして欲しいという声もあるが、開所時間を延長するだけでは無く、働き方を、企業や社会全体のシステムの中で検討していく必要もあるのではないか。

○委員
　地域のシニア世代が、子育て親子のボランティア活動をしているが、イベントになかなか親子が集まらない。特に父親が集まらず、男性の意識改革ができていない。もっと地域に関わろうという意識をもって欲しい。

○委員
　地域における子育ては、幼い子どもたちを核に、父親、シニア世代を巻き込みながら様々な世代の大人が見守る中で育っていくもの。
　運営している地域子育て支援拠点では、父親を引き込み、みんなが顔見知りになり、子どもを中心とした村のようになっている。地域はこのようになればいい。
　以前、県でまちの寺子屋事業を実施していたときは、シニアの方が集まり、非常に活性化していた。やはり、このような仕組みづくりが重要。

○委員
　地元で、手づくり絵本教室を開催している。当初は子どもと母親だけだったが、今では、家族で来てくれるようになった。男女共同参画を学ばれた父親、母親が増え、徐々にお互い助け合っていこうという意識が少ずつ根付いていると感じる。

○委員
　発達障害の子が増え、先生の負担がますます大きくなっているし、子ども達もしんどい環境でやっている。そこで、スクールカウンセラーを配置するなど子どもが豊かに生きていくために、人材面での配慮が必要。

○委員
　新しい社会的養育ビジョンでは、幼児には、集団養育ではなく家庭的な環境で養育することが基本とされた。
　また、施設は、貧困家庭など社会がもっと幅広く関わらなければならない子どもに、社会的な養育・養護を提供するため、ますます専門的な力を発揮しなければならない。

以上